



牧之原市「ゼロカーボンシティ」宣言

—2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロに向けて—

気候変動問題は、私たち一人ひとり、この星に生きるすべての生き物にとって避けることのできない、喫緊の課題です。

近年、地球温暖化も要因として、世界各地を記録的な熱波が襲い、大規模な森林火災を引き起こすとともに、ハリケーンや洪水が未曾有の被害をもたらしています。国内各所にも、災害級の猛暑や熱中症による搬送者・死亡者の増加のほか、数十年に一度といわれる台風・豪雨が毎年のように発生し深刻な被害をもたらしています。

今も排出され続けている温室効果ガスの増加によって、今後、このような災害等のさらなる頻発化・激甚化が予測されております。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、私たち人類やすべての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」と表現すべき事態と考えています。

2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

牧之原市は市民や事業者の皆様とともに、国際社会の一員として、また、本市の目指す将来都市像として掲げる「絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXT まきのほら」、環境像として掲げる「うみ・そら・みどりと共生するまち まきのほら」の実現のため、2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に果敢に取り組むことを宣言します。

令和3年1月8日

牧之原市長

杉本基久雄